

事案名	五泉市の事案（新潟県15-1）
分類	生産・保有 廃棄・遺棄 現在の状況
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・「本邦化学兵器技術史〔年表〕」昭和32年〔1〕 ・証言〔2〕 ・現況の写真〔3〕
資料内容概要	<p>戦時中、五泉市内に第六陸軍技術研究所の一部が疎開していた。同市には、終戦までの2年間研究所のような施設があり、終戦当日に敷地内においてガラス瓶等を埋設したとされている。</p> <p>また、その後、市内の川に捨てられた缶を開けた子どもが被害を受けたとされている。</p> <p>生産・保有情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・終戦時、第六陸軍技術研究所五泉分室では、ガス性状・ガスの検知体系を研究していた（体制は約40名、所在地の記載なし）〔1〕。 <p>廃棄・遺棄情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・証言者（住民）によれば、終戦までの約2年間、五泉市内に研究所のような施設が開設されていたが、何が行われていたのかは不明である。なお、同証言者によれば、同施設宛の荷物の運搬を当時担当していた人物（役場職員）から、入口に防毒マスクが並んでいたこと、終戦の日に、その施設の敷地内に書類やガラス瓶を埋設したのを目撃したという話を聞いた。そしてさらにその人物は、市内の川に捨てられていた缶を開けた子どもが被害を受けたという噂を聞いたと同証言者に語ったという〔2〕。 <p>現在の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究所のような場所は、現在事業所の敷地となっている〔3〕。